

令和元年度 主な事業

令和元年度は「まちの活性化」「人口減少・少子高齢化への対応」「安全安心な学校教育」「協働と持続可能な自治体運営」「いきいき茨城ゆめ国体 2019・いきいき茨城ゆめ大会 2019、市制施行 50 周年」などを重点項目として推進しました。

■ まちの活性化

- ▶ 防災無線・防災ラジオ整備事業…5億2,897万2千円
280MHz デジタル防災無線の導入と防災ラジオの整備を進めることで、より確実な防災情報の伝達を図りました。
- ▶ 取手駅北土地区画整理事業…18億6,806万5千円
- ▶ 桑原地区整備推進事業…2,454万1千円



■ 人口減少・少子高齢化への対応

- ▶ 井野なないろ保育所・地域子育て支援センター新築事業…10億2,183万円
吉田・舟山保育所を統合し、東部地域子育て支援センターの機能を含めた「井野なないろ保育所・地域子育て支援センター」を整備し、子どもたちの安全安心な保育環境のさらなる充実を図りました。
- ▶ さくら荘外壁・屋根改修工事…3,947万4千円
- ▶ 多子世帯保育料軽減事業…3,384万4千円
- ▶ 市立保育所 ICT 化推進事業…532万5千円
- ▶ 新生児聴覚検査事業…111万1千円



■ 安全安心な学校教育

- ▶ 藤代南中学校校舎・体育館大規模改修事業…7億8,870万円
老朽化した藤代南中学校校舎・体育館の大規模改修工事を行い、安全で快適な教育環境の充実を図りました。
- ▶ 通学路整備事業…9,229万1千円
山王通学路…3,386万6千円
下高井田向通学路…2,192万8千円
野々井通学路…1,519万円
藤代通学路…1,402万5千円
清水通学路…728万2千円
- ▶ いじめ防止対策事業…1,810万2千円



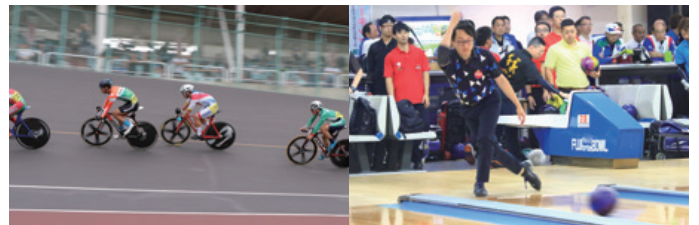
■ 協働と持続可能な自治体運営

- ▶ 総合計画策定事業…972万9千円
令和元年度は、第六次取手市総合計画（基本計画）および取手市まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終年度のため、総合戦略の内容を含めて一本化した総合計画（基本計画）を策定しました。
- ▶ 立地適正化計画策定事業…797万7千円
- ▶ チャレンジデー事業…100万円



■ いきいき茨城ゆめ国体 2019・いきいき茨城ゆめ大会 2019、市制施行 50 周年

- ▶ 茨城国体取手市実行委員会交付金…1億2,843万4千円
45年ぶりに茨城県で開催されたいきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会で、正式競技の自転車（トラック・レース）、ボウリングなどが円滑に運営されるよう関係団体・機関と緊密な連携のもと進めました。



■ その他の事業

- ▶ 小堀の渡し渡船の購入…5,282万8千円
約30年間運航され、老朽化した渡船を更新し、安全な渡船の運航や地域資源の活用を図りました。
- ▶ 福祉会館改修事業…2億4,871万円
- ▶ 消防本部大規模改修事業…2億152万円
- ▶ 高規格救急自動車の購入…3,972万3千円
- ▶ 公園施設長寿命化対策事業…2,467万9千円



市長 Mayor's column コラム

妊娠・出産を支える やさしい環境を



取手市長

藤井信吾

一部地域で新型コロナウイルス感染者数が増加傾向にあり、取手市においても立て続けに若い方たちの感染が確認されています。そのような中、過日、新聞各紙が一斉に「今年の5月から7月に受理した妊娠届の件数が対前年同時期比較で1割を超える減少となった」ことを報じました。その要因として、県をまたぐ移動の自粛で里帰り出産が難しくなったことや院内感染への警戒、さらには雇用情勢悪化による経済的理由が挙げられています。

春先以降、コロナをめぐる著名人の死去や不安をおおるような報道が相次ぎ社会に動揺が広がる一方で、感染者を執拗に探し出して差別する事例などが起き、社会のとげの部分が見えたことも事実です。

政府は今、国民を守るため、感染予防策と経済対策の両立を掲げ、さまざまな政策を絶え間なく行おうとしています。私は、①感染予防②経済支援に加えて③人の健康・社会の健康の三つを守り抜くことが大事だと考えています。

冒頭、申し上げた妊娠届の大幅減は、「少子化加速」という観点から捉えるべきではなく、「コロナが社会の優しさや連帯を危機にさらしているため、私たち一人一人がコミュニティの一員として、周囲に寄り添う気持ちを持たなければ、妊産婦や子育て中の母親を孤立させ、児童虐待などの最悪の結果を招く」という危機感を持って対処すべきであると思います。

妊産婦の死因の1位は、コロナ禍以前から、がんや心疾患を上回って自死

で、初産婦の4人に1人が抑うつに悩んでいるのが実態です。

妊娠や子育ては誰でも不安を抱えやすく、周囲が本人に寄り添い、適切で専門的な窓口につなげることが支援の第一歩となります。取手市では、妊娠中から出産後まで、体調や精神面の確認、専門職による連携した支援を継続して実施しています。また、9月1日からは市内在住の就学前までの子どもとその保護者を対象に、LINEを用いた情報発信を開始しました。今後も情報発信を拡大し、安心できる妊娠と育児支援に向け充実させていきます。

私たちの地域コミュニティは、これから親となる方や生まれてくる子どもに優しいという強いメッセージが大切だと考えています。